

ゴボウのカルテック栽培

(10アール当り)

土作り	(早めに) 播種迄に20日以上、なるべく長期間おいて下さい。 特に岐根に悩んでいる畑では、早めに、シッカリ土作りをして下さい。	<p>堆厩肥 1トン以上 (なるべく多く) ※堆厩肥・有機物が無い場合は、米ヌカ150kg(以上)。 ラクトバチルス 600グラム ※深くまで 通気が良く、膨軟で、醗酵状態の 豊かな土壌にします。</p> <p>硫 安 80kg ※もし通常の配合肥料を使う場合は、チッソ成分で16kg 前後。 (硫酸カリ 20kg … 砂地で堆厩肥が乏しい場合)</p> <p>畑のカルシウム 60kg (土壌が酸性なら80~100kg) ※カルシウム栄養供給とともに、土壌酸性の中和も行ないます。 ゴボウは特に土壌酸性に弱く、適正pH6.5~7.0です。 なるべく土壌深層まで酸性を中和するよう、土作り時に使用します。</p>
		<p>上記4種を同時に散布して、耕し、整地します。 ゴボウの成否は もちろん土壌が深く、通気が良く、堆厩肥や有機物が腐敗しないように、土作りが出来たかどうかにかかっています。 また、もしも堆厩肥が腐敗して残留していると、コガネムシ・ハリガネムシの幼虫による被害も多くなります。</p>
播種前後	播種前後の散水時 (または播種後4~5日中)	濃縮酵素液 を適宜薄めて 灌水(散水)します。 ※発芽・発根の促進。線虫や土壌病害にも強くします。
追 肥	第1回・追肥 (播種後45日~50日頃)	硫 安 10kg (状態を見て) ※間引き(本葉3枚)後、散布して土寄せ。 ※なお、 <u>間引き後、茎葉の痛み回復・生長促進のためには、濃縮酵素液 500倍を 葉の上から散布して下さい。</u>
	第2回・追肥 (播種後80日頃)	硫 安 20kg (第1回から30日後、状態を見て) 畑のカルシウム 20kg ※カルシウムは茎葉から地下部への養分転流を促進し、ゴボウを重く充実させます。 ※この時期に土の表層と深層とのpHを測定すると、かなり酸性になっていて生育が悪い事がよくあります。酸性なら中和して下さい。 ※状況によって、葉色が薄く[葉中チッソ3.0%以下]、土壌にチッソ不足[EC:0.2以下]なら、硫安を追肥します。 ※葉形が丸く、葉色が濃く、チッソが効いている[EC:0.3~0.4]状態なら、カルシウムを追肥します。硫安+カルシウムの同時施用も効果的です。 硫安とカルシウムは同時に散布できます。ただし混ぜたまま、撒かず長時間を置くことはしないで下さい。 ※追肥は株(ウネ)の片側に溝施用し、中耕・土寄せして下さい
葉面散布 (適時、状況を見て)	生長増進、根部の伸長	濃縮酵素液 500倍で 葉面散布
	転流・充実の促進	カルテックCa液状 500倍で 葉面散布 (ウドンコ病対策も)

春蒔き：1月播種，6月収穫（暖地）

秋蒔き：9月播種，6~7月収穫

晩春蒔き：4月播種，9~12月収穫

〈品種〉山田早生，柳川早生，魁，渡辺早生



カルテック栽培のゴボウの特長は
煮ると柔らかく、すじっぽさが無い。